

# 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課： 道路局 高速国道課

担当課長名： 横田 耕治

事業名	近畿自動車道 名古屋神戸線 四日市JCT～菟野		事業区分	高速自動車国道	事業主体	日本道路公団	
起終点	自：三重県四日市市伊坂町 至：三重県三重郡菟野町音羽			延長	1.4 km		
事業概要	第二名神高速道路は第二東名高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。						
H11年度事業化	H3年度都市計画決定		H-年度用地着手		H-年度工事着手		
全体事業費（有料）	1,726億円		事業進捗率	0%		供用済延長	- km
計画交通量	43,500～45,500台/日（有料）、50,000～57,700台/日（無料）						
費用便益分析結果（有料）	B/C (事業全体) 4.80 (残事業) 4.81	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,072/1,074億円 事業費：994/997億円 維持管理費：78/78億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 5,159/5,159億円 走行時間短縮便益：4,674/4,674億円 走行費用減少便益：345/345億円 交通事故減少便益：140/140億円	基準年 平成15年度			
費用便益分析結果（無料）	B/C (事業全体) 9.03 (残事業) 9.05	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,013/1,016億円 事業費：990/993億円 維持管理費：23/23億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 9,167/9,167億円 走行時間短縮便益：8,472/8,472億円 走行費用減少便益：509/509億円 交通事故減少便益：186/186億円	基準年 平成15年度			
事業の効果等（有料）	<ul style="list-style-type: none"> <li>指標1（高速バス等長距離自動車交通の利便性が高まる）</li> <li>指標2（新幹線・空港等幹線交通網への利便性が高まる）</li> <li>指標3（高度な医療施設までの搬送時間が短縮される）</li> </ul>					他9項目に該当	
関係する地方公共団体等の意見	第二名神高速道路は、現名神高速道路の混雑緩和だけでなく、将来的には現東名・名神高速道路、東海環状自動車道、中央自動車道、東海北陸自動車道等と有機的に連携して、国土の枢要な高速道路網を形成します。また、東名・名神高速道路の冬季規制や事故発生時には、その交通機能を代替します。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	将来の社会経済状況の変化に対応した将来交通需要、及び、長期的な道路計画の検討に資する2050年までの推計を目的に、前提となる社会経済指標等を見直した結果、全車の総交通需要を下方に修正。						
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在、土質調査中。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後、地元設計協議に着手する予定。						
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。						
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図	<p>近畿自動車道 名古屋神戸線 四日市JCT～菟野</p> <p>菟野 四日市 四日市北 四日市JCT みえ川越 弥富 富木 富洲 湾岸</p> <p>亀山 JCT</p> <p>高速自動車国道          ■ 供用中          ■ 事業中          □ 整備計画区間          □ 基本計画区間          ○ 予定路線          高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路          ■ 供用中          ■ 事業中</p>						

供用中はH15年度供用予定を含む。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

（バックデータ等についてはインターネットで公開）